

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2005年3月23日から2025年1月7日までです。
運用方針	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とし、投資信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 運用にあたっては、日経500種平均株価採用銘柄を予想配当利回りの高い順にランキングし、上位の70銘柄程度を投資対象とします。投資にあたっては、各銘柄への資産配分が、概ね等金額投資となることを目標に運用を行います。 組入銘柄の見直しと各銘柄の組入比率の調整（リバランス）は、原則として1ヵ月毎に行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	年4回、1月、4月、7月、10月の各月の7日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 分配金額は、分配対象収益の範囲内で、委託会社が分配可能額を勧案のうえ決定します。なお、1月の決算時の分配金額は、基準価額が当初元本を上回っている場合は、委託会社が基準価額水準を勧案のうえ決定します。 分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

## 運用報告書(全体版)

# 日本好配当 リバランスオープン

第42期（決算日 2015年10月7日）

第43期（決算日 2016年1月7日）

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様の「日本好配当リバランスオープン」は、2016年1月7日に第43期決算を迎えましたので、過去6ヵ月間（第42期～第43期）の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-8-1

お問い合わせは弊社カスタマーサービス部へ  
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

【ホームページ】

<http://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。  
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。



## ○最近10期の運用実績

決算期	基準価額			日経500種平均株価		東証株価指数 (TOPIX)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
	(分配落)	税金 分配	期末 騰落 率	(参考指数)	騰落 率	(参考指数)	騰落 率			
34期(2013年10月7日)	円 7,148	円 40	% △ 1.0	円 1,178.24	% △ 0.9	ポイント 1,147.58	% △ 2.1	% 93.7	% -	百万円 3,278
35期(2014年1月7日)	7,866	40	10.6	1,325.31	12.5	1,283.25	11.8	94.4	-	3,740
36期(2014年4月7日)	7,635	40	△ 2.4	1,261.83	△ 4.8	1,196.84	△ 6.7	95.4	-	4,282
37期(2014年7月7日)	8,202	40	8.0	1,345.84	6.7	1,279.87	6.9	96.1	-	4,216
38期(2014年10月7日)	8,148	40	△ 0.2	1,375.41	2.2	1,290.89	0.9	95.0	-	3,763
39期(2015年1月7日)	8,492	40	4.7	1,464.27	6.5	1,359.80	5.3	93.9	-	3,427
40期(2015年4月7日)	9,748	40	15.3	1,752.98	19.7	1,578.55	16.1	94.2	-	3,396
41期(2015年7月7日)	10,129	40	4.3	1,819.30	3.8	1,637.23	3.7	94.1	-	3,143
42期(2015年10月7日)	9,636	40	△ 4.5	1,659.18	△ 8.8	1,493.17	△ 8.8	94.4	-	3,647
43期(2016年1月7日)	9,459	40	△ 1.4	1,647.85	△ 0.7	1,457.94	△ 2.4	93.2	-	3,457

(注) 基準価額および分配金(税引前)は1万円当たり、基準価額の騰落率は分配金(税引前)込みです。

(注) 日経500種平均株価、および東証株価指数(TOPIX)は、当ファンドの参考指数でありベンチマークではありません。

(注) 株式先物比率は買建比率-売建比率です。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

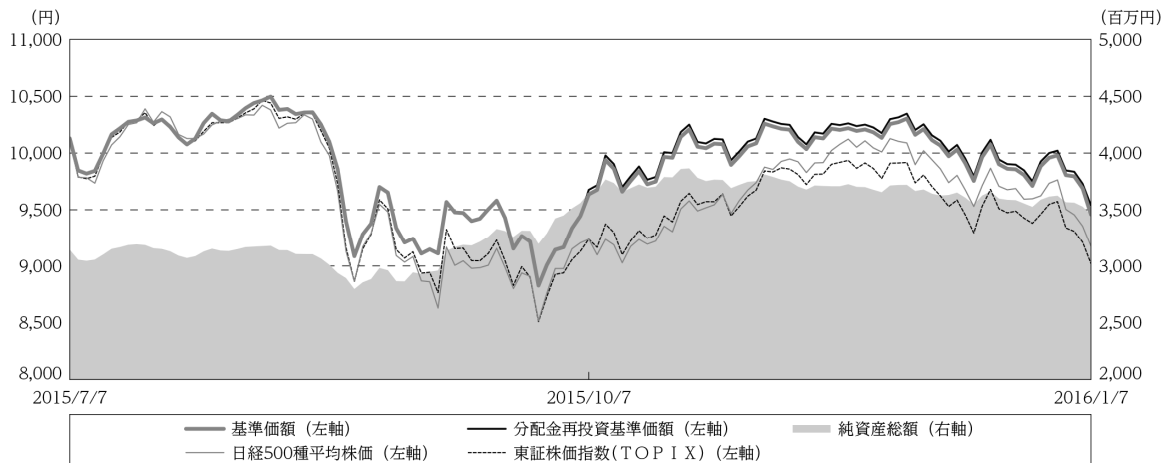
決算期	年月日	基準価額		日経500種平均株価		東証株価指数 (TOPIX)		株式 組入比率	株式 先物比率
		騰落率	騰落率	(参考指数)	騰落率	(参考指数)	騰落率		
第42期	(期首) 2015年7月7日	円 10,129	% -	円 1,819.30	% -	ポイント 1,637.23	% -	% 94.1	% -
	7月末	10,346	2.1	1,840.74	1.2	1,659.52	1.4	96.0	-
	8月末	9,652	△ 4.7	1,702.89	△ 6.4	1,537.05	△ 6.1	93.0	-
	9月末	9,009	△ 11.1	1,573.73	△ 13.5	1,411.16	△ 13.8	92.8	-
	(期末) 2015年10月7日	9,676	△ 4.5	1,659.18	△ 8.8	1,493.17	△ 8.8	94.4	-
第43期	(期首) 2015年10月7日	9,636	-	1,659.18	-	1,493.17	-	94.4	-
	10月末	10,078	4.6	1,730.80	4.3	1,558.20	4.4	95.9	-
	11月末	10,134	5.2	1,797.89	8.4	1,580.25	5.8	96.5	-
	12月末	9,980	3.6	1,753.63	5.7	1,547.30	3.6	94.6	-
	(期末) 2016年1月7日	9,499	△ 1.4	1,647.85	△ 0.7	1,457.94	△ 2.4	93.2	-

(注) 期末基準価額は1万円当たり分配金(税引前)込み、騰落率は期首比です。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2015年7月8日～2016年1月7日)



第42期首：10,129円

第43期末：9,459円 (既払分配金(税引前):80円)

騰落率：△ 5.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、日経500種平均株価および東証株価指数(TOPIX)です。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首(2015年7月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

## (主なプラス要因)

- ・業種では、空運業や化学などが主なプラス要因となりました。
- ・個別銘柄では、パスコや日本たばこ産業などの株価上昇が主なプラス要因となりました。

## (主なマイナス要因)

- ・業種では、証券、商品先物取引業や機械などが主なマイナス要因となりました。
- ・個別銘柄では、セガサミーホールディングスや野村ホールディングスなどの株価下落が主なマイナス要因となりました。

## 投資環境

(2015年7月8日～2016年1月7日)

国内株式市場は、一部企業の2015年4-6月期決算が予想を上回ったことなどを好感し、2015年8月中旬にかけて上昇した後、中国の景気減速に対する懸念などを背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、9月下旬にかけて大幅下落となりました。その後は、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉が大筋合意に達したことが好感されたほか、1億総活躍社会の実現に向けた経済対策などの政策への期待も相場の支援材料となり、持ち直す動きとなりましたが、12月以降は原油市況の低迷を背景に欧米株が軟調に推移したことや、人民元安などを受けて中国の景気減速への懸念が強まったことから、再び下落しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2015年7月8日～2016年1月7日)

## 【株式組入比率】

相場の変動等に伴い一時的に組入比率が上下する場面がありましたが、高位組入れを基本とし、概ね90%～97%の間で推移させました。作成期末は93.2%となっております。

## 【当作成期間の運用状況】

運用の基本方針に則り、毎月末のデータをもとに日経500種平均株価採用銘柄の中から予想配当利回り上位70銘柄を選定し、翌月に各銘柄への資産配分が概ね等金額になることを目標に組入銘柄の入替えと組入比率の調整を実施しました。また、追加設定・解約申込みなどの投資資金の増減に応じて組入銘柄の調整売買を行いました。

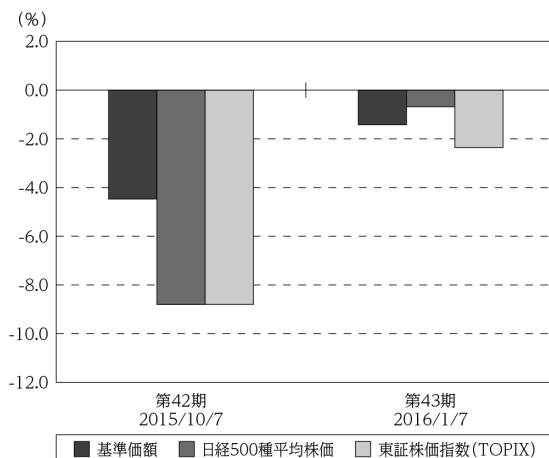
作成期末の組入銘柄数は、70銘柄となっております。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年7月8日～2016年1月7日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数としている日経500種平均株価、東証株価指数（TOPIX）の騰落率を上回りました。詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

## 基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) 参考指数は、日経500種平均株価、東証株価指数（TOPIX）です。

## 分配金

(2015年7月8日～2016年1月7日)

年4回、1月、4月、7月、10月の各月の7日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配を行います。分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます）等の全額とします。分配対象収益の範囲内で、委託会社が分配可能額を勧告のうえ決定します。なお、1月の決算時の分配金額は、基準価額が当初元本を上回っている場合は、委託会社が基準価額水準を勧告のうえ決定します。

この基本方針に則り、作成期中は第42期決算、第43期決算において、それぞれ1万口当たり40円（税引前）、合計80円（税引前）の収益分配を行いました。なお、留保益の運用につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

## (分配原資の内訳)

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第42期	第43期
	2015年7月8日～ 2015年10月7日	2015年10月8日～ 2016年1月7日
当期分配金	40	40
(対基準価額比率)	0.413%	0.421%
当期の収益	40	—
当期の収益以外	—	40
翌期繰越分配対象額	3,299	3,262

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

当ファンドの運用方針に則り、日経500種平均株価採用銘柄で予想配当利回りの上位70銘柄程度を投資対象とし、各銘柄への資産配分が概ね等金額投資となるよう運用を行います。組入銘柄の見直しと各銘柄の組入比率の調整（リバランス）は、原則として1ヵ月毎に行い、株式組入比率は、高位を保つことを基本として運用してまいります。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

## ○ 1万口当たりの費用明細

(2015年7月8日～2016年1月7日)

項 目	第42期～第43期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(19)	(0.190)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(21)	(0.217)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 4 )	(0.043)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	31	0.310	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式 )	(31)	(0.310)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.005	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 1 )	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	76	0.766	
作成期間中の平均基準価額は、9,866円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2015年7月8日～2016年1月7日)

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

## 株式

		第42期～第43期			
		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株	千円	千株	千円
		5,777	3,512,665	3,928	3,071,014

(注) 金額は受渡代金です。

(注) 単位未満は切捨てです。

## ○株式売買比率

(2015年7月8日～2016年1月7日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	第42期～第43期
(a) 当作成期中の株式売買金額	6,583,680千円
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	3,233,193千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.03

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年7月8日～2016年1月7日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	第42期～第43期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 3,512	百万円 1,452	% 41.3	百万円 3,071	百万円 459	% 14.9

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	第42期～第43期
売買委託手数料総額 (A)	10,576千円
うち利害関係人への支払額 (B)	3,094千円
(B) / (A)	29.3%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

## ○組入資産の明細

(2016年1月7日現在)

## 国内株式

銘柄	第41期末	第43期末	
	株数	株数	評価額
	千株	千株	千円
<b>鉱業 (1.6%)</b>			
三井松島産業	320	373	50,355
<b>建設業 (5.9%)</b>			
西松建設	—	105	48,720
大東建託	3.3	3.5	50,312
大和ハウス工業	14.8	—	—
積水ハウス	21.7	—	—
日揮	—	26	45,162
東芝プラントシステム	—	36.1	47,291
<b>食料品 (—%)</b>			
日本たばこ産業	9.7	—	—
<b>繊維製品 (1.5%)</b>			
オンワードホールディングス	50	65	46,670
<b>パルプ・紙 (1.4%)</b>			
日本製紙	19.7	24.7	45,966
<b>化学 (2.8%)</b>			
クラレ	28.2	32.9	45,961
D I C	138	—	—
東洋インキS Cホールディングス	86	98	45,668
<b>医薬品 (2.9%)</b>			
武田薬品工業	7.1	8	46,824
ツムラ	16	—	—
第一三共	18.6	19.3	47,140
大塚ホールディングス	10.8	—	—
<b>石油・石炭製品 (4.3%)</b>			
昭和シェル石油	39.5	49	46,844
東燃ゼネラル石油	37	47	47,705
J Xホールディングス	79.9	95.3	45,191
<b>ゴム製品 (4.2%)</b>			
横浜ゴム	—	25.9	44,314
ブリヂストン	9.3	11.6	45,379
住友ゴム工業	22.3	30.6	44,767
<b>ガラス・土石製品 (—%)</b>			
旭硝子	57	—	—

銘柄	第41期末	第43期末	
	株数	株数	評価額
	千株	千株	千円
日本電気硝子	68	—	—
<b>鉄鋼 (2.8%)</b>			
神戸製鋼所	—	364	45,500
日新製鋼	27.8	37.6	44,593
<b>非鉄金属 (1.4%)</b>			
三井金属鉱業	—	214	45,796
住友金属鉱山	23	—	—
<b>金属製品 (—%)</b>			
L I X I Lグループ	17.4	—	—
<b>機械 (12.8%)</b>			
ツガミ	—	92	44,436
東芝機械	—	118	44,604
アマダホールディングス	32.6	41.6	45,260
小松製作所	—	24.3	45,088
日立建機	19.7	25.5	45,186
平和	17.3	21.4	47,700
SANKYO	9.7	10.7	47,294
サンデンホールディングス	—	125	44,250
セガサミーホールディングス	26.4	42.7	46,927
<b>電気機器 (11.3%)</b>			
沖電気工業	—	319	44,341
セイコーエプソン	19.4	25.9	44,211
ワコム	94.9	100.5	46,833
アンリツ	51.1	60.8	46,816
新光電気工業	47.8	62	45,632
キヤノン	10.6	13.2	45,513
リコー	33.2	38.7	44,388
東京エレクトロン	—	6.6	44,470
<b>輸送用機器 (8.2%)</b>			
川崎重工	—	107	43,335
日産自動車	33.1	37.9	43,603
トヨタ自動車	5.1	6.5	44,837
日野自動車	27.9	34.4	43,963
K Y B	100	132	45,936



日本好配当リバランスオープン

銘柄	第41期末		第43期末	
	株数	株数	株数	評価額
	千株	千株	千株	千円
ダイハツ工業	24.2	—	—	—
富士重工業	—	9.6	42,960	
<b>精密機器 (—%)</b>				
ニプロ	33.7	—	—	
<b>その他製品 (1.4%)</b>				
大日本印刷	33	40	44,720	
<b>電気・ガス業 (3.0%)</b>				
中国電力	23.6	30.3	49,389	
北陸電力	23.1	27	48,087	
<b>空運業 (—%)</b>				
日本航空	9.9	—	—	
バスコ	125	—	—	
<b>情報・通信業 (4.4%)</b>				
フジ・メディア・ホールディングス	26	33.8	46,610	
トレンドマイクロ	10.1	—	—	
伊藤忠テクノソリューションズ	—	20	46,580	
NTTドコモ	18	19.5	47,541	
<b>卸売業 (8.5%)</b>				
伊藤忠商事	26.1	33.6	45,208	
丸紅	60.1	77.5	45,500	
三井物産	25.4	33.5	46,514	
住友商事	29.6	39.1	46,724	
阪和興業	73	92	44,528	
サンリオ	12.7	17	45,577	
<b>小売業 (1.5%)</b>				
ローソン	5	—	—	
ユニーグループ・ホールディングス	53.9	—	—	

銘柄	第41期末		第43期末	
	株数	株数	株数	評価額
	千株	千株	千株	千円
ヤマダ電機	—	92.6	49,263	
<b>銀行業 (8.7%)</b>				
あおぞら銀行	91	115	47,610	
りそなホールディングス	63.1	—	—	
三井住友トラスト・ホールディングス	—	105	45,916	
三井住友フィナンシャルグループ	7.7	10.5	45,601	
みずほフィナンシャルグループ	159.3	199	45,969	
北洋銀行	—	115.1	46,385	
池田泉州ホールディングス	76.1	96.9	48,062	
<b>証券・商品先物取引業 (7.0%)</b>				
大和証券グループ本社	46	65	46,228	
野村ホールディングス	50.8	71.4	45,838	
東海東京フィナンシャル・ホールディングス	47.4	65.4	43,948	
松井証券	39.3	43.5	45,675	
カブドットコム証券	103	127.5	44,242	
<b>保険業 (—%)</b>				
ソニーフィナンシャルホールディングス	19.7	—	—	
<b>その他金融業 (1.4%)</b>				
ジャックス	—	109	45,235	
<b>サービス業 (3.0%)</b>				
ラウンドワン	70.7	88.6	47,844	
ベネッセホールディングス	13.8	13.9	47,955	
計	株数・金額	3,054	4,903	3,220,507
	銘柄数<比率>	70	70	<93.2%>

(注) 業種・銘柄欄の( )内は、第43期末の国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注) 合計欄の< >内は、第43期末の純資産総額に対する評価額の比率です。

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。

(注) —印は組み入れがありません。

## ○投資信託財産の構成

(2016年1月7日現在)

項 目	第43期末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 3,220,507	% 92.5
コール・ローン等、その他	259,623	7.5
投資信託財産総額	3,480,130	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第42期末	第43期末
	2015年10月7日現在	2016年1月7日現在
	円	円
(A) 資産	3,669,575,966	3,480,130,921
コール・ローン等	190,915,584	255,088,486
株式(評価額)	3,441,166,780	3,220,507,110
未収配当金	37,493,550	4,535,200
未収利息	52	125
(B) 負債	22,379,320	23,027,817
未払収益分配金	15,139,807	14,619,470
未払解約金	78,193	—
未払信託報酬	7,076,096	8,308,278
その他未払費用	85,224	100,069
(C) 純資産総額(A-B)	3,647,196,646	3,457,103,104
元本	3,784,951,780	3,654,867,730
次期繰越損益金	△ 137,755,134	△ 197,764,626
(D) 受益権総口数	3,784,951,780口	3,654,867,730口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,636円	9,459円

(注) 運用報告書作成時点では、監査未了です。

(注) 計算期間末における1口当たり純資産額は、第42期0.9636円、第43期0.9459円です。

(注) 純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は第42期137,755,134円、第43期197,764,626円です。

(注) 当ファンドの第42期首元本額は3,103,106,325円、第42～43期中追加設定元本額は1,094,496,340円、第42～43期中一部解約元本額は542,734,935円です。

## ○損益の状況

項 目	第42期	第43期
	2015年7月8日～ 2015年10月7日	2015年10月8日～ 2016年1月7日
	円	円
(A) 配当等収益	38,006,813	6,115,014
受取配当金	37,998,090	6,108,874
受取利息	7,387	6,140
その他収益金	1,336	-
(B) 有価証券売買損益	△ 137,290,241	△ 57,169,039
売買益	107,316,753	144,746,804
売買損	△ 244,606,994	△ 201,915,843
(C) 信託報酬等	△ 7,161,320	△ 8,408,347
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 106,444,748	△ 59,462,372
(E) 前期繰越損益金	685,963,950	512,464,557
(F) 追加信託差損益金	△ 702,134,529	△ 636,147,341
(配当等相当額)	( 547,347,274)	( 570,094,415)
(売買損益相当額)	(△1,249,481,803)	(△1,206,241,756)
(G) 計(D+E+F)	△ 122,615,327	△ 183,145,156
(H) 収益分配金	△ 15,139,807	△ 14,619,470
次期繰越損益金(G+H)	△ 137,755,134	△ 197,764,626
追加信託差損益金	△ 702,134,529	△ 636,147,341
(配当等相当額)	( 547,347,274)	( 570,094,415)
(売買損益相当額)	(△1,249,481,803)	(△1,206,241,756)
分配準備積立金	701,669,636	622,310,736
繰越損益金	△ 137,290,241	△ 183,928,021

(注) 損益の状況の中で、(B)有価証券売買損益は期末の評価替えによるものを含みます。(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額、監査費用を含めて表示しています。(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第42期	第43期
(a) 配当等収益(費用控除後)	30,845,493円	0円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	547,347,274円	570,094,415円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	685,963,950円	636,930,206円
分配対象収益(a+b+c+d)	1,264,156,717円	1,207,024,621円
分配対象収益(1万口当たり)	3,339円	3,302円
分配金額	15,139,807円	14,619,470円
分配金額(1万口当たり)	40円	40円

## 用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>資産</b>	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
<b>負債</b>	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
<b>純資産総額(資産－負債)</b>	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
<b>受益権総口数</b>	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

## 用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>配当等収益</b>	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
<b>有価証券売買損益</b>	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
<b>信託報酬等</b>	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
<b>当期損益金</b>	当期における収支合計です。
<b>前期繰越損益金</b>	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
<b>追加信託差損益金</b>	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
<b>計</b>	収益分配前の期中の収支の総合計です。
<b>収益分配金</b>	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
<b>次期繰越損益金</b>	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

## ○分配金のお知らせ

	第42期	第43期
1万口当たり分配金（税引前）	40円	40円
支払開始日	各決算日から起算して5営業日までの間に支払いを開始します。	
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本店	

## 〈お知らせ〉

該当事項はございません。

## 〈当ファンドの参考指数の著作権等について〉

「日経500種平均株価」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経500種平均株価」自体及び「日経500種平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。

「日経」及び「日経500種平均株価」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。

本件投資信託は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用及び本件受益権の取引に関して、一切の責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経500種平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経500種平均株価」の構成銘柄、計算方法、その他「日経500種平均株価」の内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。